

## 災害から資料を守り、救うために

2016 眞野 節雄（日本図書館協会資料保存委員会）

○図書館資料は「文化財」でないから、救わなくても良いのか

博物館、文書館のない地域、特殊コレクション、地域の「宝」（地域資料）

○資料の災害対策についての「教科書」はたくさんある。しかし、各機関での具体的なマニュアルはない。

『図書館、文書館における災害対策』サリー・ブキャナン著 日本図書館協会, 1998.12

『資料保存と防災対策』全史料協資料保存委員会編 全史料協資料保存委員会, 2006.3

『みんなで考える図書館の地震対策』日本図書館協会, 2012.5

パネル「利用のための資料保存（災害編）」

（「ネットワーク資料保存」第99号 日本図書館協会資料保存委員会, 2011.10）

○東京都立図書館資料防災マニュアルについて

前提（基本的な考え方、構成）

3つの特徴

資料が受けるダメージから見る

ダメージの種類によって優先順位がある

塗工紙に着目（都立中央、山口大、陸前高田、常総、都立中央）

→「水濡れした塗工紙にどう対処するか」（文化財保存修復学会第35回大会研究発表要旨集 2013）

トリアージフロー図

被災資料救済セット 冷凍庫の確保 吸引掃除機

訓練

○大規模な水濡れ被災

被災想定一津波、洪水など大量に被災が想定される場合

資料群ごとの順位付け

同じ資料群のなかでのトリアージは困難？

被災してしまったら一冷凍施設の確保。真空凍結乾燥、脱気（脱酸素）の問題点

大規模被災に対しては、現実的にはそうならないように「予防」が命？

○陸前高田の津波被災資料の修復

何を修復しているのか

「郷土資料をもう一度集めます。陸前高田の歴史を残し、伝えていきたい」

記録動画「大津波からよみがえった郷土の宝—陸前高田市立図書館郷土資料の修復」（15分）

（日本語版） <https://www.youtube.com/watch?v=2YT0uGFYhAc>

（英語版） <https://www.youtube.com/watch?v=q4M-N3K3lpY>